CCIちば

造園業の魅力伝える

船橋市 飯山満南小学校92人に

県魅力ある建設事業推進協議会（CCIちば）は18日、船橋市立飯山満南小学校で建設業に関する出張授業を展開した。6年生92人を対象に、建設関連でも特に造園業が持つ魅力や、そのやりがい、植物との関わりなどを紹介している。今回は、今年度2回目となる造園業特化型建築プログラムの授業を実施し、児童たちが将来就く職業の選択肢の1つに加えてもらった。

講師は京成バラ園芸造園部（八千代市）の豊田祐二部長らが務めた。

児童はクイズや質問に挙手などで応じ、積極的に取り組んだ

身振り手振りを交え説明する豊田講師

豊田講師は、八千代市にあるローズガーデンをスライドで示しつつ、バラの起源は最も古い説だと恐竜が絶滅した時期の少し前とされる約7000万年前であることなどを教えると、児童達は目を丸くして驚く一幕もあった。

また、ハイブリッド・ティー系などの「バラの種類」や「花弁・花びらの形による分類」「花形・咲き方による分類」など多種多様でさまざまなタイプのバラがあることを紹介するとともに、建設業の中でも施設を建てるだけでなく公園内の花壇やベンチ、水飲み場、トイレ、安全面に配慮した舗装、遊具などを扱う「造園」について興味を持ってもらった。

続けて豊田講師は造園業のやりがいについて「公園などを作った後、皆さんに楽しんでもらえる姿を見ると、苦労して作った甲斐があるなと思える職業だ」と振り返った。

さらに、整備に携わった施設は地図に残ることにも言及し「形として未来に残るものが作れる仕事なので、将来仕事に就く時に造園業を選ぶきっかけにしてほしい」と身振り手ぶりも交えながら造園業の魅力を児童らにPR。

児童らは熱心にメモを取る姿も見られた。また授業後には、児童代表から講師陣に感想が伝えられるとともに、参加した全児童からあらためて感謝の言葉が贈られている。

CCIちばによる建設業に関する出張授業は、郷土の社会科学習とキャリア教育の一環として行われ、NPO法人企業教育研究会の市野敬介氏が授業進行を担当した。

今年度の出張授業はこれまでも10月30日に市川市立二俣小学校で展開した造園業特化型建築プログラムを皮切りに実施しており、今回で5回目。今後も県内小中学校で次々と実施する見通しだ。

スライドも活用しながらわかりやすく解説する講師陣（左側）

高度な判断力で貢献

35周年記念式典開く　県補償コンサル協議会

県補償コンサルタント協議会（菊川俊英会長）は13日、千葉市内のホテルで、「創立35周年記念式典及び祝賀会」を開き、役員をはじめ、会員らが互いにこれまでの活動を振り返り喜びを分かちあうとともに「補償基準をよく知ることで信頼されるコンサルタント」であることを再確認した。物件があるからではなく、被補償者に損失が生じるから補償するとして、今後も高度な判断力と専門性で、地域社会に貢献する姿勢を見せた。

冒頭、菊川会長は、協議会の35年の歴史を振り返りながら「補償業務を取り巻く社会情勢は刻々と変化している」と強調。「35年前に協議会設立の大業を成した先達の純粋な志を忘れることなく、これからも会員の資質の向上を図り、公共福祉の増進を目指して活動を続ける」などと意気込みを見せた。

菊川会長

来賓の県土整備部の國本孝次長は「協議会の存在は、県の事業を進める上で欠かすことができない。用地補償の専門家としての技術と知識で今後も協力してほしい」などと話した。

県測量設計業協会（ちば測協）会長で、協議会の設立メンバーでもある横打研氏は「社会資本整備の円滑な実施に貢献するという共通の使命を負ったもの同士、これからも互いに協調しながら発展を目指そう」と呼びかけた。

横打会長（ちば測協）

表彰では、協議会の事業運営に尽力し、県内補償コンサルタント業界の地位向上と発展に貢献した12社と1個人を表彰。また、日本補償コンサルタント協会関東支部の外園和弘支部長が菊川会長に感謝状を贈呈した。

受賞者を代表して、鈴木測量の鈴木智彦代表取締役は「今回の受賞は一社だけの努力ではなく、日ごろの関係者のおかげだと感謝している。今回の受賞を励みにして、今後も研さんを重ね、県内補償コンサルタント業の発展に貢献したい」などと謝辞を述べた。

記念講演では、気象予報士の平野有海氏が「気候変動と激甚化する気象災害」と題して、人を天災から、自然を人災から守るなどと話した。

協議会は、1990年7月に29社でスタートし、現在の会員数は67社に上る。県内の補償コンサルタント相互の連絡と従事者の資質向上を目的に設立した。毎年、各種研修会、講習会を開催し、会員が相互に情報を共有することで、目的を果たしている。

また、県公共用地対策協議会と意見交換、協議を重ね、補償基準や細則ではカバーしきれない事象について「県取扱要領」「県単価」を定め、会員、企業者と広く共有することで、県内の公平・適正な補償に寄与している。

団体、個人功労を受賞した企業・個人は次の通り（敬称略）。

【団体功労】
▽オリエンタル測量▽京葉測量▽ケーエス・コンサルタント▽光和測量▽鈴木測量▽総武調査工業▽高木測量▽ちばとち▽つくも▽成田測量▽八紘測量開発▽横打

【個人功労】
▽鳥海清（アイワ測量設計）

表彰では受賞者一人一人に感謝状が手渡された

感謝状を受け取る菊川会長㊧

35年記念式典後、祝賀会が行われた

習志野市 インフラ協

有事での活用PR

災害用トイレ BOSAIフェア参加

マンホールトイレの仕組みを伝える大塚氏㊨

習志野市インフラ協議会（岩井健会長）は16日、東日本セキスイ商事（東京都港区）の協力で、習志野市内の小中高校26カ所で開かれた習志野わくわくBOSAIフェア（習志野市総合防災訓練）に参加した。習志野市立津田沼小学校と第一中学校で災害用トイレ（マンホールトイレ）のミニチュアを展示して来場者に有事の際の活用をPRするとともに、避難の仕方などをクイズ形式で説明した。

避難所になる津田沼小学校で岩井氏（サクラ設備）、矢野豊氏（三徳工業）、東日本セキスイ商事防災減災プロジェクト大塚哲史部長、佐藤晃課長、第一中学校で寺田良一氏（豊栄工業）、渡邊健敏氏（栄工業）、木本寛文氏（京葉パイピング）、東日本セキスイ商事防災減災プロジェクト清谷智広課長、野田裕介氏らがマンホールトイレのそばでテントを張り、使い方や機能を説明した。フェアが開かれた学校には延べ100人以上が来場した。

同協議会は、7月11日、倉庫にマンホールトイレ5台を常備している津田沼小学校で、東日本セキスイ商事の防災・減災担当者らとともに、4年生90人を対象に「地震に強い水道・下水道と大地震の時のトイレ」をテーマに出前授業を実施している。災害時などに、普段使っているトイレが使えなくなった場合、避難所でのマンホールトイレの利用とともに、水の大切さなどを伝えた。出前授業で、「マンホールトイレの設置が、災害時の安心につながる」ことを再確認。広く住民にも伝えたいとの思いで、BOSAIフェアに協力したという。

現在、市内には両校のほか、谷津小学校、向山小学校、谷津奏の森公園にマンホールトイレが設置されている。

岩井会長は、「災害時に必要な物は食料、飲料、もちろんトイレがある。地域の人にマンホールトイレを知ってもらうことで、少しでも安心した気持ちになれたら嬉しい」などと述べた。また、市内小学校3校、中学校1校、公園1つの設置について、「来場した住民は安心した様子だった。今後、すべての避難所に設置されていると、市民も安心すると思う」などと話し、マンホールトイレの普及に期待を寄せていた。

避難の仕方などのクイズを説明する矢野氏㊧

成東文化会館の改修

山武市が補正予算発表

松下市長

山武市（松下浩明市長）は18日の記者会見で、19日開会の市議会定例会に提出する一般会計補正予算案の概要を明らかにした。主な内容をみると、成東文化会館改修事業の工事費に1443万円を計上した上で全額を繰越明許費に追加設定する。老朽化により音声出力の低下などの不具合が発生している非常用放送設備の改修にあてる。

設計関連では、松尾出張所等移転事業の委託料に499万円を措置する。行財政改革に伴う施設の集約・機能移転の一環として松尾出張所と空港地域振興課を松尾交流センターへ移転するにあたり、にぎわい処を事務室を改修するとして設計に着手する。

土木費については、地区要望などによる道路補修箇所の増加に伴う道路維持事業の修繕料などを増額するとともに、山武郡市広域水道企業団が行う松尾台工業団地内の水道管工事に併せて舗装修繕工事のための負担金として合計2928万円を計上する。

このほか、本庁舎整備事業526万円、さんぶの森交流センターあららぎ館施設管理事業150万円、こども園施設整備事業745万円、さんぶの森元気館改修事業338万円、農業集落排水事業会計補助事業463万円、消防施設維持管理事業2494万円、防災施設維持管理事業1102万円、成東文化会館施設管理事業131万円なども予算化する。市議会定例会は12月10日まで。

お任せください!!
入札参加申請手続き
建設業許可申請　経営状況分析申請　経営事項審査申請
各公共団体への入札参加申請　産業廃棄物処理業許可申請
行政書士 大野事務所
所長 大野 月也司（ツヤシ）
船橋市丸山5－16－10　目標：ＪＲ船橋駅乗換え
東武野田線馬込沢駅下車　徒歩5分
TEL（047）439－0631（代）
FAX（047）439－0678
http://www.ono-office.co.jp

OneBitを選定

鋸山のライトアップ整備　富津市

富津市は、鋸山の魅力発信に向けてライトアップする。斜面を光で彩ることで、訪れる観光客に鋸山周辺地域の金谷地区の夜の滞在を楽しんでもらい、市街地の夜の回遊性を高め、活性化を図る。ライトアップを整備する事業者に「設計・施工一括発注」のプロポーザルで、OneBit（東京都杉並区）を優先交渉権者として選定した。履行期間は2026年2月までとし、提案限度額に350万円（税込）を設定していた。

日本遺産の候補地域として認定を受けている「鋸山」の歴史、景観などの魅力を考えた装飾、照明設備の設置場所、照射範囲、光量、演出効果の設計などについての計画立案と、選定した照明機材などの設備整備を行う。

計画では、通称「ラピュタの壁」付近を中心に、壁面の人工的な凹凸を幻想的で効果的に演出するようにライトアップの装飾を配置する。

照明設備の設置場所、装飾箇所は、原則的に履行場所敷地内とし、装飾の位置、高さ、色彩や演出内容の計画は、歩行者や走行車両、周辺環境の支障とならないように配慮する。

一度だけではなく、何度も見に行きたくなるように、金谷地区の各所からも視認できることなどを求めている。また、業務完了後に観光地としての発展性や設備の拡張性にも考慮した計画とした。

設備の整備では、環境負荷に配慮した履行方法とし、電源は登山道内の既設電源、電線から引き、自動点灯・消灯機能を組み込む。設置後の維持管理は市が行う。

富津市の高橋恭市市長は、「鋸南町と共同で、鋸山の歴史・芸術・文化を国内外に向けて最大限に発信し、資源を生かした地域活性化事業に取り組む。日本遺産認定を目指し、地域の魅力を更に引き出し、昇華させていく取り組みを続ける」と話している。

21年に鋸山を舞台に華開いた歴史や文化芸術が日本遺産「候補地域」に認定された。鋸南町側の日本寺を中心に展開する仏教関連遺跡などと、富津市側に残る石切場跡としての産業遺跡を一体化させて、構成要素としている。富津市と鋸南町は、鋸山日本遺産候補地域活用推進協議会を立ち上げている。

MAVERICK
建築土木
現場警備
㈱マーベリック
（千葉県警備業協会員）
千葉ガードセンター
TEL. 043-264-1884

建物をシステムで
考える立川ハウス
プレハブ建築総合メーカー
施工・リース
社団法人プレハブ建築協会会員
立川ハウス工業株式会社
千葉営業所
千葉市中央区新町24－9　千葉ウエストビル3F
電話　043－243－2902（代）
FAX　043－243－7641

sto　StoCretec
ポリマーセメント乾式吹付工法
鉄筋裏側まではつる。
鉄筋防錆材塗布
吹付けモルタル
表面仕上げモルタル
表面保護コーティング
NETIS登録
千葉県新技術登録
主な特徴
● 長距離圧送可能。（水平200m垂直150m）
● 振動下の天井面でも厚付け可能。（最大100mm）
● 鉄筋背面への充填性に優れる。（時速200kmでの吹付け）
● 高い付着力・高密度形成。（母材に強固に付着・変位追従）
日本コンクリート補修・補強協会会員
株式会社 岡部建設
誠実・実行・感謝！
本社 〒294-0052 館山市亀ヶ原890番地の1
TEL0470-36-2266 FAX0470-36-2268
e-mail:info@okabe-c.co.jp